

13・兆円補正案 聞議決定

7割国債 借金頼み続く

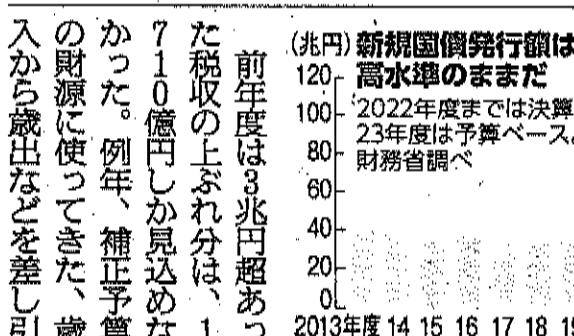
政府は10日、経済対策の裏付けとなる2023年度補正予算案を持ち回り閣議で決定した。一般会計の歳出は13兆1千992億円。物価高対策や半導体関係の基金への支出を増やしたことと、歳入の67%を国債（借金）で

まかねた。「コロナ禍で加速した『借金頼み』の体質から抜け出せていない。

▼3面=利払い賃貸荷に国会の審議を経ずに使い道を決められる「予備会計」の歳出は13兆1千992億円。物価高対策や半

は含まれていない。

歳入では、財源の一部



コロナ禍
補正予算案の追加発行額
8.8兆円

いた「決算剰余金」も自由に使えない。今年度から国債の返済に充てる分を除いた金額を防衛費増額の財源に回すためだ。

財源の不足分を補うた

め、8兆8千50億円の

国債を追加で発行する。これにより今年度の新規発行は計44兆4千9千80億円に膨らむ。コロナ下よりは縮小したが、14～19年度の30兆円台を大きく上回っている。23年度末の発行残高は1兆7千5兆円になる見込みだ。

世帯向けの1世帯あたり7万円の給付に1兆5千92億円、現制度を来年4月まで延長するガソリン・電気、ガス代の補助に7948億円を使う。

複数年度にわたる事業に支出できる国の基金は、半導体メーカー向けに工場建設などを支援する基金に計2兆円近く（特別会計含む）を積み増し、宇宙関係の技術開発を促す「宇宙戦略基金」に3千億円を計上した。一般会計から基金にあてた金額だけで約4兆円にのぼる。（神山純一）

かかった。例年、補正予算の財源に使ってきた、歳入から歳出などを差し引いた。例年、補正予算の歳出は、住民税非課税